



ゆんたく

2020 Vol.32

都島

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

都島友の会は新型コロナとどう向き合ってきたのか

都島友の会のリクルート活動

私たちのコロナ対策（各園・各施設からの報告）

本部からの報告/訪問介護 ひーぐるま START!!

社会福祉法人 都島友の会

コロナ再び急増 通天閣や太陽の塔にサインが灯った

～ With コロナ、ポストコロナの時代の中で～

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

新型コロナウイルスの感染が中国の武漢市で確認されたのは昨年12月のこと。それは当初隣国とはいえ、どこかまだ遠くに起こった出来事のように感じた。しかし武漢から瞬く間に中国全土に広がり、突然予想もせぬ姿で私たちの前に現れました。

コロナウイルスとは発熱や上気道症状を引き起こすウイルスで、人に感染するものはこれまで6種類あり、そのうちの2つは中東呼吸器症候群(MERS)や重症急性呼吸器症候群(SARS)などの重症化傾向のある疾患の原因ウイルス、残り4種類のウイルスは、一般の風邪の原因の10～15%(流行期は35%)を占めます。(※国立感染症研究所)

そして今回出現したのが、人に感染する7つ目の『COVID-19』と言われる新型コロナウイルスです。

日本で最初に感染確認されたのが1月16日。やがてダイヤモンド・プリンセス号での大量感染に始まり、誰もがここまで影響が出ることを予測していなかった気が致します(私もそうでした)。

東京や大阪でクラスター感染が起こり、感染者数は急増、2月27日、安倍晋三首相が新型コロナウイルスの感染拡大防止を理由に全国全ての小中高校と特別支援学校について3月2日から春休みに入るまで臨時休校するよう要請。さらに4月7日には東京や大阪で爆発的な感染拡大や医療の崩壊を防ぐために外出自粛などの要請を徹底する特別措置法に基づく緊急事態

宣言が発令され、4月16日には全都道府県に拡大しました。まさに未曾有の事態です。

感染の拡大や医療の崩壊を防ぐため、「外出の自粛」「イベント開催の自粛」「可能な限り在宅勤務(テレワーク)」、時差出勤、営業自粛、移動制限…。三つの密(密閉空間・密集場所・密接場面)を避ける暮らしのあり方は、これまでの生活を一変させました。今まで普通にできていたことが、今はできません。そして世界全体が重苦しいムードに包まれていきます。多くの国でロックダウンや外出自粛要請が出され、世界の人は自由を失いました。東京オリンピックの延期をはじめ、日々行われていた文化行事や音楽活動が延期や中止となり、小中高、大学といった教育機関、そして多くの施設が一時閉館になり、保育施設の利用についても、家庭での対応可能な場合には可能な限り、利用の自粛要請が出ました。

しかし、医療従事者、警察や消防といった社会機能の基本機関と同様、私たち法人の各施設や、そこで働く職員は、社会経済活動の維持のため、迫りくる感染拡大のニュースを耳に、不安を押し殺し奮闘、子どもたちや高齢者、ともに働く仲間を守り、その中で平時の日常を保つために日々必死に仕事をしてきました。まさに、社会福祉、社会福祉法人としての社会的役割や使命、その重要性に光が当たり、その存在意義の重さが顕わになった瞬間でした。

5月25日、緊急事態宣言が解除されました。学校では分散登校が開始となり、企業や事業所

今回の「ゆんたく都島」はコロナ禍における私たち法人の対応を、各施設ごと、どのように対応し、その中で何を考え、何を悩み、そして何を大切にしてきたか、様々な角度から報告していきます。

も少しずつ活動を再開し、法人各園、各施設にも子どもたちが戻り、高齢者の皆様の姿が見えるようになって徐々に日常生活を取り戻すように見えました。しかし7月には再び感染者が急激に拡大、大阪では8月に入ると感染者数が急増、重症者も「第1波」のピークを上回り、過去最多となりました(8月16日現在)。猛暑と共に気が抜けない辛い日々が続きます。

現在の感染拡大がどのようになるか分かりませんが、ワクチンや特効薬といった予防、治療法が確立されていない現状において、今後も第2波、第3波が来る可能性は常にあり、しかも感染を防ぎながら経済を回していくという綱渡的な事態の中で、コロナと共にある社会、共存していく体制を続けねばならないと思います。

今回の新型コロナウイルスに奪われたものは数多くありますが、得たもの学んだものもあります。その一つは、ただ恐れるのではなく、「正しく恐れる」ということです。誰もが経験したことのない状況です。こういう時には世の中が感情論に満ち、フェイクニュースやデマに気をつけなければなりません。そういったものに騙されることなく、出来るだけ一次情報(ソースとなる論文、オフィシャルサイトの情報など)を探し、それを読むことで真実の情報を得るように努力することが重要です。例えば今回、厚生労働省ではインターネットで新型コロナウイルスの詳細なデータを公表しています。正しい情報を知り、伝える、という役割・学びを覚えていきましょう。そういう作業

あるいはまた今回のことで自らの生活や仕事、世の中の在り方をあらためて振り返る機会を得たように感じます。新型コロナウイルスが流行する前(プレコロナ)と後(ポストコロナ)では、世界はどのように変化するのでしょうか？ それに伴い私たちはこれからどのように考え行動すればいいのでしょうか？ 新型コロナウイルスの出現によって世界の環境が大きく変わりました。例えば今まで当たり前のように会ったり集ったりしていたことがとても難しくなりました。私たちの関係する福祉、保育、教育分野でも大きな変化があるでしょう。人と人とのコミュニケーション、その重み、その意味も違ってくるのではないかと思います。新しい保育や介護のあり方も生まれ、あるいは今までやってきた私たちの保育や介護の大切さがいっそう見直されるのかもしれないかもしれません。これからどう自分を考えるか、何を大切にしようし、何を大切にすべきかを考える時なのかもしれません。皆さんもポストコロナの大きく変わった世界を想像してみてください。その中で自分はどうのように生きていくのかを考えるのは、まさに今なのです。



都島友の会は、新型コロナウイルスとどう向き合ってきたのか

子どもたちや利用者、地域の方々や職員を守るために、私たちがしてきたこと

新型コロナウイルスによる感染症（COVID-19）が世界的に大きな脅威をもたらしています。これまで当たり前とされていたことや信じていたものが音を立てて崩れ、凄まじいスピードで変化しているように感じます。

都島友の会では新型コロナウイルス感染拡大にともない、政府や所轄官庁から通達される新型コロナウイルス対策関連のガイドラインを守り、その上で、理事長をはじめ法人の全施設長で構成される施設長会を中心に新型コロナウイルス対策会議を設置。時々の感染状況、情勢の変化に応じて対策を講じてきました。また関係機関から発信される最新情報を基に、その都度、会議を開催し、法人としての対策や対応、行うべき取り組みを決定してきました。

私たち法人が時々判断し、新たな対策を講じてきた中で、

※その取り組みは社会福祉の理念に沿って正しいのかどうかの判断を常に行う。

※その取り組みにエビデンス（証拠・科学的根拠）はあるかを検証する。

※可能な限り、施設や園内、関わる関係者の感染者をゼロとする行動をする。

※その取り組みは、保護者や利用者、家族、地域の方の理解を得られるものかどうか、利益を守る支援を行っているかどうかを検証する。

といった基本的な基準を軸に法人全体の取り組みを進めてきました。



12月8日
中国の湖北省武漢市の保健機関により原因不明の肺炎患者が初めて報告された

1月24日
武漢市在住、旅行者男性、東京都出初めの感染者確認

1月26日
大阪府で初の感染者確認

1月30日
安倍総理を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置

2月13日
国内で初の死者が発生

2月15日
大阪市内ライブハウスを訪れた女性感染。クラスター発生

2月27日
安倍総理が3月2日から全国小中学校の臨時休校を要請（2月29日～3月13日）

3月13日
新型コロナウイルス特別措置法が成立する

3月21日
国内感染者数が千人を超える

3月24日
国際オリンピック委員会（IOC）と東京2020組織委員会は、東京2020大会の延期を発表

4月3日
国内感染者が三千人を超えた



ひがみや児童センター卒園式

※新型コロナウイルス感染症拡大が報道されるなか法人、各園で対応できること（消毒・換気・密を避ける等）の強化を施設長等で確認

※2月・3月に行われる行事等について、中止または規模の縮小等話し合う。卒園式についてはかけがえのない行事であることをふまえ、予定通り実施するが、従来の内容を一部変更し感染拡大防止措置をとりながら開催することを決定

※3月行事等においても自粛及び小規模、最大の注意を取り計らい行う
※3月1日より大阪市内の小中高等学校は休校の措置がとられた。保育施設は通常通りの受け入れを行うが、家庭での保育が可能な方は家庭保育の協力を呼び掛けた
※学校の休校に伴い、非常勤職員が勤務出来ない状況が各園で多く見られるようになる

※園児・職員も手洗い・消毒の徹底
※職員は、マスクを着用しながら保育を開始
※保護者にも園内に入る際には、マスク着用・消毒をお願いする
※辞令交付式参加職員の人数制限を行う（本来は正規職員全職員参加）
※各園各施設の状況や近隣地域の状況を互いに連絡し、情報共有の強化
※4月～5月の行事を中止決定



規模を縮小して行われた辞令交付式

咳エチケットのうた、手洗いのうた動画



まず、法人の看護師連絡会が始動しました…

『看護師連絡会』としての新型コロナウイルス感染症への対策



新型コロナウイルスのニュースは、年明け頃から目立ち始め、1月下旬には多くのメディアやネットで情報が発信されていました。あまりにも多くの情報があふれる中で、私たち看護師連絡会では、まずこの未知のウイルスについて正しい情報を得ることに奔走しました。新型コロナウイルスとは、いったいどのようなウイルスなのか？保育施設での感染症対策はどうすればよいのか？保育現場の負担や混乱から子どもたちの生活への影響を最小限にしたいと考え、職員や保護者へ新型コロナウイルス感染症の正しい情報を発信するために、マニュアルを作成しました。ただ不安を煽るのではなく、ウイルスを正しく理解することでウイルスを怖がらず、安心してかつ安全に保育を行える環境作りを最優先としました。4月には非常事態宣言が出される中、認定こども園や保育園は登園自粛の対応を取りながらも、社会機能等の維持のため、保育は継続、乳幼児が集団で生活する保育現場において、新型コロナウイルスの予防対策を実施することは、様々な困難が生じております。同時に新型コロナウイルスの対策は、長期的な対応が求められています。

私たちは、これまでも職員及び保護者へ保健についての周知活動とともに保育施設内の消毒を率先して行ってきました。新型コロナウイルス感染症は特效薬がない、ワクチンがないなど、まだまだ不安な疾患ではあると思いますが、保育施設で流行する感染症は、新型コロナウイルス感染症だけではありません。今までと同じく保育施設内に感染源を持ち込まない！広めない！ということが一番に考え感染症対策を徹底して行くことが重要です。『症状があれば歩かない』『三密を避ける』『個人個人が正しい知識を持つ』ことが新型コロナウイルス感染症の一番の感染症対策になると考えています。

看護師連絡会 中村 智子



4月7日
埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県の7都府県に対し5月6日までの緊急事態宣言が発令された

4月16日
全都道府県に対し緊急事態宣言が発令された

5月4日
安倍首相が緊急事態宣言の5月31日までの延長を発表

5月14日
政府緊急事態宣言を39県で解除

5月21日
政府が兵庫県、大阪府、京都府の3府県の緊急事態宣言を解除

5月25日
緊急事態宣言、全面的に解除
5月27日
大阪、コロナ追跡システムの運用開始

※緊急事態宣言後、保護者への家庭保育の協力要請に伴い園児数が減少することが予想されたため、職員の健康維持のため新型コロナウイルス感染症特別休暇が取得できるようになる。各園勤務調整に入る

※緊急事態宣言後、保育時間の縮小を行った。迎時の園児の受け入れ等は、玄関前で行った

※看護師連絡会が作成したマニュアルをもとに、各園ごとに新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成

※緊急事態宣言後、登園自粛・家庭での保育協力をお願いしていたが、更なる感染防止をはかるため、4月20日（月）より特別保育への移行。特別保育利用申請書を提出してもらう

※登園していない園児に向けて、電話連絡や家庭訪問を行い園児の状況把握に努めた。各園動画を配信したり、塗り絵やシル遊び等を郵送するなど、家庭でも楽しめるものを用意提供した

※緊急事態宣言が5月末まで延期されたことに伴い、ゴールデンウィーク終了後より各園の状況に合わせて、臨時登園日を数回設けた

※緊急事態宣言後、感染防止の観点から家庭での保育が可能な方には家庭保育の協力を求めている。また、再度保護者に協力を求めた（保育料の軽減があることも保護者に知らせた）



※緊急事態宣言解除後、6月より園児の登園が増加。保育時間は縮小したままの状態。6月8日（月）通常保育開始
臨時登園日を設けていたことで、子どもたちもスムーズに登園出来た。また、職員も2か月間従来の教育・保育が出来なかつたので、カリキュラムの見直しを行った

5月19日

東京など首都圏の1都3県や、北海道の都道府県をまたぐ移動の自粛要請が解除された

7月26日

国内感染者が三万人を超える

7月31日

沖縄県が、感染者の急増を受けて県独自の緊急事態宣言を、8月1日から8月15日まで発令すると発表した(その後、8月29日まで延長)

*6月より幼児クラスの特別活動(音楽・体育等)開始

課外教育クラブについては6月中自粛

*プール遊び(夏ならではの遊び等を含む)

マニアル等の見直し

*熱中症とコロナ対策の難しさを痛感。職員が保育室内でマスクを着用しながら保育するリスク



感染を考慮しながら、いかに以前のような日常を取り戻すのか。大阪でも感染者がまだまだ増加している現在、私たちは感染症予防の基本としてこれまで以上に各園各施設の消毒をこまめに行っています。また法人の児童施設や高齢者施設は日常の生活だけでなく、いずれも多くは行事が行われます。新型コロナウイルスの影響の中で「行事」とどう向き合い取り組んでいくのか。これもまた大きな難問です。

三密・ソーシャルディスタンス等、以前ではありえなかったことを考えながら、教育・保育、介護、療育を行わなければならない。また、私たちの仕事が生きたり利用者や密に関わらざるを得ない状況を見ると、様々な面で矛盾と向き合い模索しながら仕事に取り組んでいかなければならないと感じています。

万が一、新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が出た場合、保健所等の指導の下、適切な対策を講じ、感染拡大や重症化の防止対策を徹底します。あわせて、感染者や濃厚接触者、それらが疑われる人に対する差別や偏見の予防と解消に向けて、私たちは法人全体として、その取り組みを徹底していきます。

皆さまにはお忙しい中、新型コロナウイルスに関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

都島友の会のリクルート活動

新型コロナ、その五里霧中のなかで、 自らの力で考え、私たちらしい採用活動を 繰り広げていきます。



法人紹介動画 リクルート情報

新型コロナウイルス感染症の拡大は今年度の採用活動にも大きな影響を与えています。

法人の採用検討委員会でも、3月から職員募集要項、養成校の訪問、法人施設見学会などについて話し合いましたが、これまで通りの活動が困難となり、また様々な就職説明会などは相次いで中止、法人での説明会も中止せざるを得ない状況になりました。

毎年参加している府社協、私保連の就職フェアが中止や延期となり、養成校への訪問もできず、通常通りのリクルート活動ができない中であつて、しかも保育士不足や志望者数の減少が懸念されている困難な状況下で、保育士の仕事の魅力、そして私たち法人の魅力をどう伝えていけるのか…。学生や養成校の先生方との直接的なコミュニケーションできないもどかしさの中で、私たちはやはり今まで通り、法人の魅力や保育士の魅力を、職員の目線、自らの「声」として届けたい、その思いに変わりはありませんでした。

そのため今回、私たちは、WEB(インターネット)やオンラインを活用、多くの方に法人を知ってもらえるように、法人紹介動画『リクルートにお役立ち！都島友の会をもっと知ろう！』を作成、HPにアップしました。動画では法人の理念や歴史、全施設の紹介と共に、各施設での職員の働く姿、仕事への思いや後輩へのメッセージを直接話かけるように届けたいと、職員たちがアイデアを練り、職員の手で作りました。また各園、自園の紹介動画をそれぞれ作成、出来上がった動画は各園さまさま、それぞれ思いのこもった特徴のあるものになりました。

“三密”を避け、ソーシャルディスタンスやテレワークが強調され、従来の常識や当たり前が通用しない今、一般企業の採用のあり方や働き方を変える動きも急速に進んでいます。デジタル中心の生

いま起こっていること重要なことを 一から学び理解しようと、勉強会を始めました。



中国の武漢で新型コロナウイルスの感染。クルーズ船内でのクラスター発生…。コロナ関連のニュースが毎日流れ、気が付くと京橋のライブハウスでクラスターが起き、すぐ身近なところで驚くべき事件が私たちの前に飛び込んできました。それまでどこかテレビの中の出来事だったことが目の前の現実としてやってきたのです。

1月下旬には法人の看護師連絡会や園長・施設長から私たち職員にむけてコロナウイルス感染防止対策のマニアルなどが伝達・配布されてきました。それと共に日を追って様々な情報がテレビやインターネットを通して飛び交い、マスクや消毒液、トイレトペーパーなどが全国の店舗から消えていきました。何が正解で何が間違いなのか、私たちはまず私たち自身でこの新型コロナウイルスについて知らなければならぬと感じました。そこで、法人の各園、各施設から職員が集い、勉強会を開くことにしました。

『コロナウイルスって、そもそも何なのか?』『世界で、日本で感染はどのようになって?』『インフルエンザとどう違うの?』『感染防止の基本的な取り組みとは?』『施設内でクラスターを起こさせないためには?』『大阪はどうなっている?』『保育園、認定こども園、高齢者施設では?』

勉強会ではコロナウイルスに関していくつかのテーマに分類。それぞれテーマを各園・各施設に持ち帰り、職員が手分けしてテーマごとに情報を集め、それを勉強会に持ち寄りました。そうして出来たのが一冊の手作り冊子です。これを見れば、知識や情報を共有できる。基本をいつでも復習できる…。各園でのコロナ対応では手放せないものとなりました。大切なことは、とにかくにもかくにもまずは「知る」こと。「無知」は命に関わる…。そのことの重要性を、職員自らの経験として感じた勉強会になりました。

認定こども園 友渕児童センター 林 大介

活が浸透し、新しい生活スタイルへと変わろうとすることで、保育や幼児教育、介護のあり方、そこでの働き方も大きく変わっていくことも予想されます。そんな中で希望者に私たちの仕事の魅力ややりがいなどを伝えていくか、あるいはまた学生や求職者の思いやニーズをしっかりと把握し、それにどう応えていくか…。日常生活から社会に至るまであらゆる場所で先の見えない中、それでも私たちは、「法人の魅力とは何か」をしっかりと考え、アフターコロナ時代の中での、私たちらしい採用活動を行っていきたくと思っています。

inスカイビル

8/2(日)

ほいコレ 就職フェアに出展

透明スチールの仕切りも設置されており万全の対策でした。法人は桜宮児童センターが代表園として、若手職員と園長のペアでPRを行いました。

35法人が出展。当日の来場者は学生が225人、一般求職者が7人。新型コロナウイルス感染者が学生にもでてきており、学校側がフェア参加はしないように通達しているところもあれば、反対に自主的に動きフェア参加を促すところもある様子でした。



園の紹介動画

送迎時の対応

保護者の方には、手指の消毒・マスクの徹底をして頂き、玄関での送迎を実施しています。日々の様子やお知らせなどは玄関前に掲示し、密にならないよう心掛けています。在園児が約300人と大所帯の都島児童センター。

コミュニケーションアプリ「LINE」のグループ通話機能を利用し、職員間で送迎対応がスムーズに行えるよう取り組んでいます。



臨時登園日に遊ぶ子どもたち

久しぶりに会うお友だち！
ちょっぴり恥ずかしそうにする姿も...

地域の方や保護者の方から
手作りマスクや励ましのお手紙が届きました！



お家で楽しく過ごしてね。



手洗い動画

食育動画

STAY HOME 中の子どもたちに向けて...

アフターコロナを生き抜く教育保育に取り組んでいます。



年明けに突然飛び込んできた新型コロナウイルスのニュース。最初は遠い出来事だと思っていたのに、あっという間に身近な問題になり、私たちはいま新しい生活様式を取り入れることを余儀なくされています。衛生管理やソーシャルディスタンスの徹底、SNSやWebの活用、ニューノーマルと言われる新しい日常に順応しながら、世界を震撼させているこの目に見えない敵との戦いのなかで、アフターコロナを生き抜く子どもたちへの教育保育に取り組んでいます。



園での取り組み

緊急事態宣言後、職員で話し合い「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を作成しました。それを基に対応を見直したり、園内の消毒をより徹底しています。また、職員研修を行います。また、職員研修を行います。共通理解を深め、ソーシャルディスタンスを意識した教育・保育に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症対策マニュアル

隅々まで丁寧に...
消毒を徹底しています



子どもたちも
ソーシャルディスタンスを意識！



緊急事態宣言後に思った事

● 今回の状況をどのように感じているのか職員にアンケートを取りました。

● 約2カ月、子どもたちと過ごす時間が失われてしまい、通常保育に戻った際に子どもたちと信頼関係を築いていけるの不安がありました。

● 食事やうたの時間など、飛沫感染を防ぎながら楽しく活動することの難しさを感じています。

● 消毒の徹底、ソーシャルディスタンスを確保することは、時間・人手・体力など大変な労力が必要ですが、他の感染症も予防できていると感じています。

● マスクをすることで表情が伝わりにくく難しさを感じることがありますが、身振り手振りを加えながらより丁寧に伝えられるように心掛けています。

● たくさんの保護者の方が、忙しい中様々な協力をしてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

● 子どもたち自身も「感染を予防する」という意識が芽生え始めており、ソーシャルディスタンスを取りながら行動する姿に成長を感じました。

● 休日の外出を控えているため、家でのリフレッシュ方法を考えるようになりました。

● 職場以外での職員間の交流が少なくなっただけで、少し寂しく感じています。

● 子育て中の身として、子どもを園に預けて仕事へ行くことへの不安、休日の家庭保育の難しさを感じました。その分、保護者の気持ちに寄り添い安心して預けてもらえるよう努力しようと強く感じました。



園の紹介動画



近隣の友渚小学校との連携を円滑に運ぶ為、意見交換や今後の対応などを協議、情報の共有をしています。

地域とのつながり

地域の方や保護者の方からマスクや消毒液の寄付をしていただきました。緊急事態宣言が出される中、日本中で深刻なマスク不足が起これ、それに伴い価格が高騰するなか、開園を続けたい園職員が着用するマスクは必須であり、大切に使用させていただきました。皆様に感謝の気持ちをお伝えするとともに、地域のつながりの大切さを感じることができた瞬間でした。改めて地域や保護者の方に支えられていることを実感しました。



いま、私たちができること、私たちにできること

新型コロナウイルス感染拡大で私たちの生活が変わりました。緊急事態宣言が発令され、外出自粛が呼びかけられ、私たちひとり一人が“感染しない・させないために”考えて生活する「With コロナ」の暮らし。職員、保護者、地域の皆さんと取り組んだ日々をご報告します。



園内に

子どもたちがいるところで楽しめるように、手作りステンドグラスシートを貼りました。



まるで水族館!!

6月30日時点
園児出席率
95%

6月から通常保育

6月1日時点
園児出席率
81%

いつもの夏ではないけれど、いつもとちがう夏の思い出

中止とした年長組のお泊り保育でしたが「子どもたちと一緒に楽しい時間を作りたい!」という職員の想いもあり、沖縄をテーマに、子どもたちはアロハシャツ、ムームーを着てゲームコーナーや顔出し記念写真などをスタンプラリー形式で楽しみました!



感触が楽しい
スタンプラリー!

キーマカレー、
からあげもおいしいよ

どうもこし
だいこん
きゅうり
えだまめなど

いろんな野菜づくりに挑戦!



たこの輪投げ楽しい~!
賑やかな
みんなの
めんどり!

5月29日時点
園児出席率
33%

自粛期間中

5月7日時点
園児出席率
14%

教育・保育の方法を見直し、できることをする!

以前は保育室で園児を受け入れていましたが、人の密集を避ける為、4、5歳児の朝9時までの受け入れを園庭に変更しました。しかし、朝から気温が高くなるこの時期、熱中症予防にも努めなければなりません。対応策として、ミストシャワーを設置しました。これにより涼しく過ごすことができています。



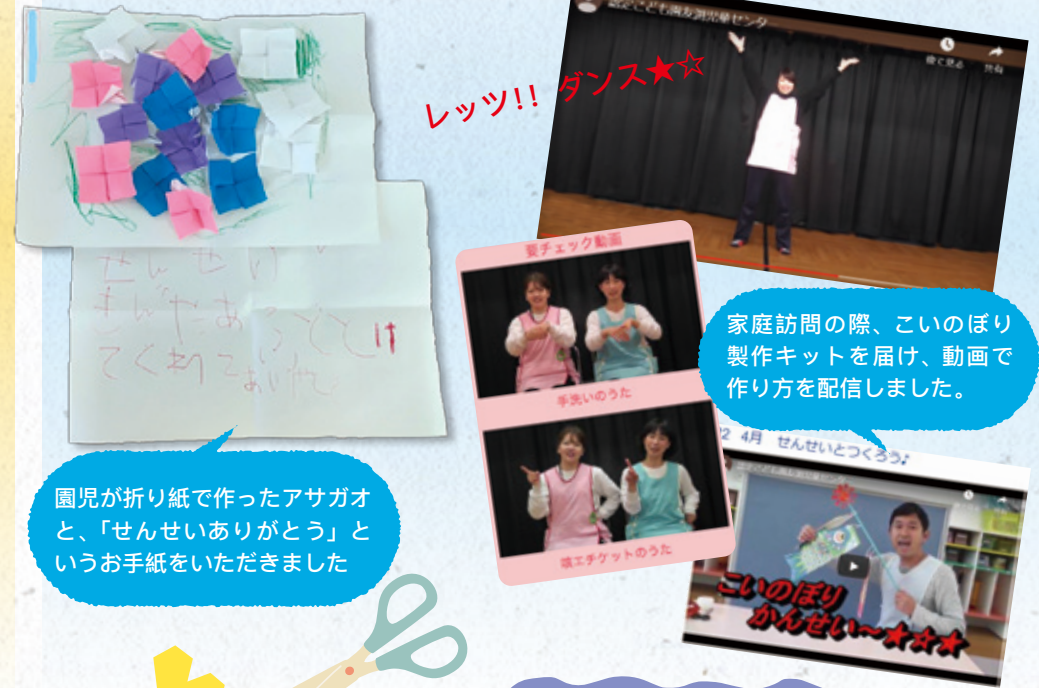
順番は間隔をあけて。
フィジカルディスタンス

緊急事態宣言 発出

4月8日時点
(緊急事態宣言後)
園児出席率
48%

STAY HOME の子どもたちへ

家庭保育のご協力期間中、子どもたちが少しでも家で楽しめるように、歌にのせて手洗いうがいの手あそび動画やダンス、絵本の読み聞かせを配信しました。



レッツ!! ダンス☆☆

園児が折り紙で作ったアサガオと、「せんせいありがとう」というお手紙をいただきました

家庭訪問の際、こいのぼり製作キットを届け、動画で作り方を配信しました。

緊急事態宣言中に思った事

職員の声

在宅勤務の社会人が多い中、電車通勤の私は感染するリスクが高まる不安がありました。子どもたちの笑顔が第一と考え自分も笑顔絶やさず関わりたいことを意識しました。
在宅勤務ができない保育士という仕事であり、自分にも小学5、6年生、年長の子どもがいるが、小学校の休校に伴い親が家にいない状況で出された課題を子どもたちだけでこなしていくことは難しいと感じた。お昼ごはんを毎日作るのも大変...
田舎の家族の為に帰省を諦め、いつも体の心配をしてくれているのでテレビ電話をして安心してもらったり母の日、父の日は両親の好きなものを取り寄せて送ったり、会えない分、自分なりに工夫してみました。便利な世の中になっただけでよかったな〜としみじみ思います

保護者の声

緊急事態宣言中でも保育を続けていただけて助かった。リスクがある中で先生が働いてくれるから私たちも働けている。
家庭保育中は子どもとゆっくり関わる事ができた。在宅ワークをしながらお昼の食事づくりが大変だった。運動不足になる...
生活リズムが乱れがちになる。
子どもと一緒に自宅で過ごせたのはよかったが、自宅で仕事をしながらであり、怒ることも多かった。



園の紹介動画

いろいろな場面で活用できる
シールドを作成するのはどうですか？



保育の中で「密」を
避けるためには
どうしたらいいと思う？



新しい体制のもと、職員みんなで話し合いながら、
感染防止の対策を考えていきました。

当園は、令和2年の9月1日で創立10年になります。
今年度より島元新園長が就任、新体制でスタートしま
した。
そんな中での新型コロナウイルス感染症の拡大。
私たちは「感染を防ぎ、新たな日常を生きるためにはど
うすればよいか」「保護者のみなさまの協力や理解を仰
ぎ、施設の特徴を最大限に活かすためにも、職員みんな
で話し合いながら対策を進めてきました。

4・5歳児クラスでは、給
食や文字活動、制作活動な
どでシールド板を使用して
います。収納場所がないの
で「コンパクトに片付ける
にはどうすればいいか」「丈
夫で手入れをしやすいもの
がいい」などと担任で話し
合った結果、ラミネートフイ
ルムを2枚重ねて3辺を
テープで貼り本立てに挿し
込む形にしました。

トランシーバーの活用

保護者の方は玄関までの立ち入り
とさせてもらっているため、1階
2階の玄関入り口に職員が1人ず
つ立ってお迎えに来られたらトラン
シーバーで各階の職員に知らせて
います。



子どもたちが玄関に到着するまで保護
者の方に待っていただいたり、玄関が
狭いので外で順番に並んでいただく
など、皆さん協力的です!!



動画配信

7月に入り園内には通常の保育風景が戻ってきました

朝の日課



5歳児の「朝の放送」

自分たちで好きな体操を選んだり、
放送の内容を考えています

5歳児が放送中☆

保育室では…

全館放送で
「密」を回避



人気の体操は

- ・ドラえもん
- ・パブリカ
- ・だるまさんがおどった

今年の年長さんのお泊り保育は
どうなるの…?

7月18日

5歳児 キラキラキャンプ

お泊り保育に代わる行事として
『キラキラキャンプ』を開催!!
昼下がりの時間から夜まで
盛りだくさんのあそびや活動を
楽しみました!



おやつはアイスクリーム

みんなで花火鑑賞

「コロナ禍の中で何もしてもらえないと
思っていたけどこんなにしてもらえ
るなんて…」
保護者の方より

ヨーヨー釣りもしたよ!



夕食はミニオンがのった
スペシャルプレート☆

先生たちがミニオンに大変身

鍵盤ハーモニカのバイ
ブの使用は感染症拡大
に繋がると考え、5月
からキーボードを使用
しています。あまり触
れたことのない楽器に
興味津々の子どもた
ち。「次は私が!」「僕
が!」と意欲的に取り
組んでいます。

キーボードの使用



子どものためにできる
最大限のことを考えよう!

戸外あそびでは、園庭だけで
なくコミュニケーションを使用してい
ます。広い敷地で体育遊具を
使って元気いっぱい体を動か
しています。

コミュニティでの体育あそび



令和2年度 園目標

みんな一緒にキラリンパ
~きみのキラキラみつけた~



マスコット
キャラクターの
『きらりん』だよ!!

送り迎えは保護者の方の

「密」を避けるためにはどうすればいい?



2階玄関



1階玄関

縦長形状の施設には
トランシーバーが大活躍!

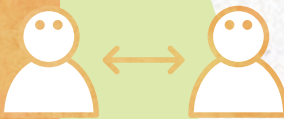
保護者の声

- 子どもと職員が玄関まで来てくれるので、靴を脱がなくて済むので帰るまでの時間が短くなりました。
- ロッカーの中が見れないので着替えや紙パンツなどが足りているのか心配でした。しかし『おうちの記』や送迎時の連絡により必要なものも不足しているものを伝えてもらっていたので、用意しやすかったです。
- 子どもが遊んでいる姿や友だちと関わっている姿が見れないので、園での様子が気になります。入口外には各クラスのボードが貼られていて、細かな子どもの様子をおいたちの記や連絡帳を通して担任とやり取りができていたので安心です。



園の紹介動画

子どもたちも間隔を
空けながら活動しています



消毒を徹底しています!!



出勤前に少し涼んでください



足のマーク!
順番に並ぶよ。

朝の会



鍵盤ハーモニカから、
新たにミニキーボードに

氷あそび
「ひんやり気持ちいい♪」



おはようございます
いってらっしゃい



登降園時、手指の消毒やマスクの着用を
お願いしています。

密を避けるため
グループごとのあそびに。
だから、園庭もス〜イスイ!



保護者、子どもたち、そして職員の仲間…。 コロナと向き合う私たちの新しいきずな!!

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、連日テレビなどで報道され、当園も危機感を常に持ちながら、園としてのような対策・対応が出来るのかを日々話し合い、受け入れの仕方など一から見直しました。保護者の方々にも感染拡大防止についてご理解いただき、家庭保育や早迎えのご協力をいただきました。保育時間の短縮中より、HPやインスタグラム、よい子ネット等を活用し、園の状況を配信するなど、園と家庭を繋ぐことも大切に保育に当たってきました。



保育室はもちろん、
子どもが使用した玩具も
その都度消毒



手すりやドアノブも大切☆

「セイ!」お家でも
身体を動かそう



ホームページやInstagram大活躍☆

家庭保育にご協力いただいている間にも、子どもたちが楽しく過ごせるよう、保育者による空手道場や体操、パネルシアターなどを配信しました。



犬のお医者さん



どんなケガでも
治すよ〜♪

緊急事態宣言を経験して思った事

- **自粛生活で困ったこと**
 - ・テレワークをしていたが、子どもも側にいる状態なので、仕事とプライベートの切り替えが難しかった。
 - **自粛生活で良かったこと**
 - ・子どもとじっくり関わる時間が増え、泣くことが減った。
 - ・「こんなことが出来るんだ」と出来ることが増えていることに気づき、子どもの成長を感じられた。
- **職員の動画配信について**
 - ・「〇〇先生だ〜♪」と喜んでいました。
 - ・毎日の配信を楽しみにしていました。
- **臨時登園について**
 - ・園生活再開に向けて、スムーズに登園できるか不安な部分もあったので、とても有難かった。

保護者の声

- **自粛生活で困ったこと**
 - ・必要最低限のスーパーなどへの買い出しも怖く、外へ出ることが出来なかった。
 - ・一人暮らしだと、もし体調を崩した時のことを考えると不安だった。
- **自粛生活で良かったこと**
 - ・我が子とじっくり関わる時間が持て、心にゆとりが持てた。
 - ・家の用事をたくさん行っことが出来た。
- **第2波への対応について**
 - ・家でも職場でも小まめに手洗いを徹底している。
 - ・電車利用は控え、車での移動を中心にして

職員の声



園の紹介動画



コロナに負けるな！

子どもたちへのエールを胸に、私たちは全力です。

新園舎初の卒園式



感染予防に留意して、規模の縮小というかたちでしたが、子どもたちにとって保育園最後の日を、広いホール、大きな舞台上で迎えることができました。新園舎での生活は約3か月と短かったですが、最後の晴れ舞台を新園舎で行えたことを職員一同嬉しく思い、保護者の方にも喜んでいただきました。

パーティー



給食の際に使用するパーティーションを牛乳パックとクリアパネルで手作り!! ひがみや児童センターパーティーションはかわいいパンダのイラストをつけ、給食の時間が少しでも楽しくなるように考えました。

令和元年度も終盤を迎え、残り少ない保育園生活を子どもたちと一緒に楽しもうという矢先、コロナウイルスの感染が広がりました。地域や保護者の方々への新園舎のお披露目であった竣工式をはじめ、職員や子どもたちが準備を進めていた様々な行事も中止となり、子どもたちの生活や保育環境が一変しました。新年度が始まる前から感染防止のための家庭保育へのご協力、緊急事態宣言での登園自粛などにより、新入園児の保護者の方は園内の様子を全く見たことがない、進級園児の保護者の方も自分の子どもの部屋の場所やロッカーの位置を知らないといった状況が続きました。緊急事態宣言解除でようやく子どもたちは園に戻ることが出来ましたが、この夏にはまたまた感染が拡大、緊張の日が続いています。早くコロナウイルス感染が落ち着き、自慢の園舎、自慢の設備の中で、子どもたちが思う存分、生き生きと暮らせる日が来ることを職員一同心待ちにしています。

コロナウイルスと向き合った保育

～感染予防に努めながら子どもたち、保護者の安全を守るために～

楽しい保育を目指して

音楽活動にも細心の気を配り...



鍵盤ハーモニカなどで吹いて音を出す楽器の取り組みは控え、キーボードを使った取り組みに変更しています。

保育の様々なことが制限される中、子どもたちには「保育園って楽しい」と思ってもらえるように、杜のホールの舞台上に広がるプロジェクターに事前に掲げたお楽しみ会を流したり、時にはホールを暗くして映画観賞会をしたり「楽しめる保育」を目指し日々検討しています!!

二か所の受け入れ場所



◀ 2階玄関からの受け入れ

抗菌・消臭作業

感染対策の一環として、業者による乳児の活動スペースである「もこもこルーム」と、幼児クラス「絵本コーナー」の抗菌・消臭作業を行いました。目に見えないところでも対策を行い、子どもたちが安全に活動できるようにしています。



水あそび

新園舎で初めての夏、4階屋上に新しい組み立て式プールを設置しました。今年度はプール活動ではなく、水遊び程度と活動を控えることを決めましたが、プールに少し水をためて遊ぶ子どもたちは「暑い中での水あそび、サイコー!」ととても喜んでいました(^^)



ベランダにカラーネットと青色の日よけシートを設置しました。眩しい日差しを遮ることができて快適に過ごせます!そして白い園舎にカラフルな色がつけました!!

コロナウイルス感染拡大予防として登降園時、保護者の方は玄関までの立ち入りを徹底しました。最初は全クラスが玄関を利用していたので、朝の登園や帰りの降園が重なる時間帯が見られ、また、対応する職員も慌ただしく動いていました。そこで、0・1歳は外階段を使って2Fから、2・5歳は1Fの玄関からと受け入れ場所を分けました。すると、混雑が減り、密の解消につながり、対応する職員も慌ただしさも解消です!!

保護者の声

緊急事態宣言が出され自粛生活を送る中で、時間に余裕ができて子どもと関わる時間にあてることができた。しかし、活動が制限されることや、生活環境の変化に子どもがストレスを溜めているのを感じた。
折り紙や体操の動画をホームページにのせてもらい、自粛中の家で子どもたちが楽しんでみる姿が見られ、「早く保育園に行きたい」という思いが強くなることもあった。いつまでこの生活が続くのか不安だった。

職員の気づき

感染予防の必需品であるマスクですが、これまでは必ず使い捨てマスクや布マスクを着用して保育を行ってききました。ある時、一人の職員が「口元が隠れているのは、子どもたちの口の動きが伝わらない」とマスクの口の部分を切り抜き、透明のシートを貼って「口元が見える特性のマスクを提案、着用すると、「子どもの反応が違う!」と職員からの報告。あらためて子どもにとって口の動き、表情が見えることの大事さを痛感、すぐにマウスシールドの購入を決めました。



便利なツールがありました

渡保育園・松島保育園

登園時に児童、職員共に検温し、微熱がある場合は自宅待機。



朝登園したら検温シートの確認をして、シートの消毒をします。



「新型コロナに負けないぞ！」

登園後は園内のドアノブなどの共有部分を消毒します。



送迎は玄関で！密にならないように。

感染防止に向けた職員の取り組み

登園したら玄関で手指を消毒して、保育室で手洗いをします。



「ぬちどうたから(命こそ宝)！」



保育園でもいつ感染が出てもおかしくない状況になっていますが、子どもたちの健やかな成長と健康を守りながら、どうしたら楽しく、思い出に残る保育ができるのかを職員みんなで考え、私たちができる事を全て、精一杯行いながら、「新型コロナに負けないぞ!」「ぬちどうたから(命こそ宝)！」との思いで、職員と子どもたち、みんなまで元気に過ごしていきたいと思っています。

沖繩での初めての新型コロナウイルス感染者は、2月14日、ダイヤモンドプリンセス号の乗船客を乗せたタクシー運転手の方でした。2月にはさらに2名の感染者が出ましたが、県内では大規模なクラスターは起こることなく、どこか遠い出来事のように感じていました。しかし東京や大阪の感染状況を知ると、このウイルスの怖さをだんだんと身近に感じ、渡、松島両保育園では、発表会は無観客でビデオを観てもらい、遠足はバスをキャンセルし、卒園式は人数制限、4月1日の入園式にはマスクを着用し、席の間隔を広げ、換気を十分に行うなど、多くの影響を受けました。また4月8日より感染拡大による登園自粛が5月20日まで続きました。沢山の保護者が自粛協力をしてくる中、玄関での送迎の対応、園内の消毒、換気、回覧でコロナ対策を共通理解するなどしながら、職員も、子どものいる職員をはじめ、全職員が特別休暇をもらい、緊張の続く勤務の中、疲れた心身を休めるようにしました。

怖れていた第二波の襲来。

見えない不安と緊張の中で、それでも私たちは子どもたちの安心・安全を守ります。

コロナ禍の中で思うこと

Matsushima



職員 仲里まりな

新年度がスタートして間もなく、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令されました。松島保育園でも各家庭に登園自粛のお願いをし、特別保育を行うことになりました。今までの通常保育とは異なる初めての経験、私たちが戸惑いの多い新年度の始まりとなりました。テレビでは連日コロナウイルスについての報道が取り上げられ不安な毎日でしたが、たくさんのご家庭に登園の自粛のご協力をしていただき、特別保育中は通常の3割程度の園児のみで、私たち保育士も順番に特別休暇をいただき休むことができました。医療の現場でも言われているように、保育士が「自分を守る」ことが園や子どもたちを守ることに繋がると改めて感じ、互いに連携して特別休暇をとったり、周囲と細かな事をきちんと確認しあったりすることも、あたり前のようです。ごく重要な事なんだと実感しました。まだこの先の見えない状況ですが、どうしても三密を防ぐ事の難しい保育園です。園内の細かな掃除や消毒、消毒用品の準備、健康観察カードの提出や日中の子どもたちの検温、十分な換気、子どもたち二人ひとりの手洗いなど、少しでも安全に過ごせるよう、感染リスクを軽減できるよう努め、預かる大切な子どもたちのため私たち保育士も今まで以上に身を引締め、私たちがいまできることを考え、協力しながら保育に取り組んでいきたいです。

Wataru



保護者 仲宗根 健さん

今後は、新しい生活様式を取り入れた保育環境になると思いますが、保護者としても保育園の取り組みをできる範囲でサポートしていきたいと思っています。ありがとうございます。

自粛期間中の家庭保育では、コロナ禍になる前に比べ、娘と家で過ごす時間が増えたことで、娘と向き合い、娘の成長を感じ、これまでの振り返りやこれからの娘との生活について改めて考える時間となりました。また、親の方も在宅勤務と出勤のシフト制となり、戸惑うことが多かったのですが、特別保育として受け入れていただき安心して仕事をすることができました。感染症対策に追われる中、対応していただいた保育園、保育士の皆様には大変感謝しております。

コロナ禍において、緊急事態宣言に伴う外出自粛要請が行われるなど、生活環境が様変わりしました。

「手を洗ってコロナウイルスをやっつけよう」と保育士が声をかけると「新型コロナに負けない!!感染拡大防止」と子どもたちのかわいい声がかえってきます。いろいろな行事もいっしょにできなくなり残念ですが、今だから出来ることを考え、楽しく園生活が送れるようにしていきたいです。



職員 稲福かおり

換気をこまめに行っております。子どもたちも登園の際、体温の確認、すぐに手洗いをしており、最近では子どもたち同士が意識し、「指の間、手首も洗うんだよね」と声かけあっています。私自身も家庭に持ち込まないよう帰ったらすぐ着替え手洗いを徹底し、家でも衛生管理には十分気を使っています。



保護者 大濱 律子さん

自粛期間中は、仕事も休みに限り家庭保育をしていました。朝は子どもたちが自然に起きてくるまで声をかけず、大人のペースでゆったりと過ごしているうちに、遅寝遅起きになり生活リズムが乱れてきました。これではいけない!と思い、ある程度の時間割を作り促してみましたが、その通りに動けたのは一回だけ。家庭保育の難しさを感じました。色々と大変な面もありましたが、昔の母親たちはこれが日常。尊敬と感謝し日々を大切に過ごしたいと思いました。

都島乳児保育センター



園の紹介動画



新園舎の生活がスタート!!!



世界中で新型コロナウイルスの感染が広がり、日本でも1月16日に初の感染者を確認、4月7日には緊急事態宣言が出され、本園でも園内の消毒の徹底をはじめ、出来る限りのソーシャルディスタンスの実践、保護者の方々には登園自粛のご協力をお願いなど、厳戒態勢が続きましたが、ようやく5月24日、大阪では緊急事態宣言が解除され、当初の予定通り6月1日に新園舎に引っ越すことが出来ました。

引っ越した初日は、子どもたちもドキドキ...! 新しい保育室やロッカー、トイレに子どもたちも興味津々の様子。「かわいい保育園♡」と嬉しそうに言う言葉も! 保護者の方には2日間に分けて、密集を避けてもらいながら新園舎の見学をしていただきました。「綺麗♡」や「トイレや靴箱を見て「小さくてかわいい♡」との言葉もいただき、私たちも緊張したWithコロナの生活の中でも、自然に笑みがこぼれました!



子どもたちも新園舎の生活に少しずつ慣れ、笑顔で過ごしています!



玄関にあるジオラマは子どもたちに大人気! 電車が走ると「おお〜」と大歓声です!



認定こども園都島児童センターにもより近くなり、行きやすくなりました! 園庭やアスレチックで遊んだり、夏の時期は水あそびをしたり、たくさん身体を動かして遊び楽しんでいます!

生まれ変わった乳児センターとWithコロナの生活

緊急事態宣言中に思った事

- **自粛生活でよかったこと、気づいたこと**
改めて子どもたちと暮らす事、その時間の中で大事にしたい事が何かを考えるきっかけとなった。
- **自粛生活で困った事、不安だったこと**
自粛中、代わりに子どもたちを見られる人がいなかったため、買い物などは結局子どもと一緒にいき、不安だった。
- **在宅勤務中、子どもがいる状況で実質、仕事にならない時間も多**く、特にWEB会議中などは子どもが泣いていてもすぐに対応できないこともあり、寂しい思いをさせてしまう事があった。
- **自粛中での家庭での過ごし方**
早寝、早起きをし、普段のリズムを崩さないようにした。
勉強の時間を設けて、楽しめる程度にドリルにトライをしました。
保育室が広くなったのびのび過ごしている様子がとても良いなと思った。
- **異年齢児の子どもと一緒に過ごす時間が増えた事も良いな**と思う。
「新しい保育園に行く」と子どもが喜んでいるので良かった。

職員の声

- 普段から保育室内の消毒などはしていましたが、こまめに玩具を消毒をしたり、よく触れる場所など細かい所も消毒する意識が高まり、自分自身も時間をかけて手洗いをするようになった。
- 家庭での子育ての中、自粛でどこにも出かけられないのに、どこかへ行きたがる子どもの対応に苦慮し、また「1日中一緒にいることでの食費など出費が多かった。園へ行っている事で子どもたちが気持ちを発散できたり、学んでくる事は数多いのだと改めて感じた。家でゆっくり見上げる時間が出て来、学習など、仕事をしている時はなかなかしてあげられない事ができた。
- 臨時登園で、久しぶりの子どもたちとの関わりの中、「子どもたちが楽しめるあそびは何だろう」と考えている自分は、やっぱりこの保育士の仕事が好きなんだと実感できた。
- 6月に新しい園舎への引越し作業を進めていたが、特別保育中だった為、多くの職員が作業に参加でき、円滑に進められた。

うたを歌う時は線の上に立ち同じ方向を向いて歌うようにしています。



混雑しないように間隔を開けて順番を待っています。足型のマークをつけて子どもたちにわかりやすいようにしています。



感染症予防しています!!

新型コロナウイルス感染症予防の為、玩具や保育室の消毒はもちろん、保育の中でも子どもたちも取り組んでいます。



保育園自粛中



保育園の登園が難しい中、家庭で少しでも楽しんで頂けたらと子どもたちに制作キットの手紙を送りました!

一緒に新園舎紹介してくれた動物たち



4月・5月はまだ新園舎が完成していませんでしたが、少しずつ完成し新園舎の中をクラスマークの動物マスコットたちと動画配信で紹介しました! 「動画見たよ!」など何度も見てくれたとの声がありました!

都島第二乳児保育センター



園の紹介動画

新型コロナウイルスで様々な行事や取り組みが中止になっている中、子どもたち、保護者、そして職員も一緒に少しでも楽しく、思い

出に残ることをしたいという気持ちでかたちを変えて行事を行いました。4月の入園を祝う会は時期はずれましたが、6月に夕方のお迎えの時間に密を避け、入園・進級をお祝いして親子で写真撮影。7月には縁日ごっこを開催しました！

感染対策として7月下旬より玄関での送迎を実施。お迎えの保護者は玄関のインターホンで連絡。送迎時に密にならないように職員を当番制にし、当番の保育者は各クラスにトランシーバーで連絡、子どもを玄関まで連れていきます。



玄関での送迎を実施

子どものために、いま私たちができることを全力で！

新型コロナウイルスから子どもたちを守るため、新しい体制での保育、『新しい生活様式』の中での様々な対策が求められています。

今までの当たり前の保育を当たり前と思わずに、安全で安心できる環境の中で、臨機応変、良いと思われることは積極的に取り入れ、子どもたちが楽しく生活でき、子どもたちの命を守れるよう、工夫しながら保育を行っています。

緊急事態宣言を経験して..

職員の声 (1年目 1歳児クラス 小野山ゆかり)
働き始めてすぐに新型コロナウイルスによって自粛になり、何をどうすれば良いかわからず、とにかく不安でした。マスクは必ず着用し、手洗いうがいの徹底、必要な用事以外は出掛けず、家にいることを気を付けています。ただ今後どこまで感染が続くか見通しがつかないことや、子どもたちが新型コロナウイルスに感染してしまわないかが一番不安です。自分たちができる保育園での消毒や掃除、手洗いうがいを今後もしっかりと行おうと思えます。

● 今後、感染者の増加が予想される中で不安に思うことは何ですか？
● 親が子どもに移さないか。子どもが感染がしないかが心配。
● 満員電車に乗って出勤している為、気付かずに感染し家庭に持って帰っていないか不安。
● 親が感染した時に子どもはどうすべきか不安。祖父母は遠方なので頼れない。
● 今後また保育園が休園になることは困る。
● コロナウイルス以外で病院を受診することも不安。

● 初めての保育園生活、または進級したクラスでの生活が始まった上で状況が変わり、不安はありましたか？
● (あそびや生活など)
● 保育園の動画を見て遊んだ。
● ぬりえ、絵本、シャボン玉など。または同年齢のあそびを探して遊んだ。
● ベランダで遊ぶ。お菓子作り。
● 生活リズムが崩れないように過ごす。

● 日用品の確保(マスクなども)が大変。通販だけでは補えないものもあり、店舗へ行くことに不安があった。
● 自粛中は家庭でどのようにして過ごされていきましたか？
● (あそびや生活など)

● 今回の自粛生活でよかったこと、困ったこと、不安なことはありませんか？
● 子どもとゆったりとふれあい関わられたのでよかった。
● 夫婦で分担して過ごせた。家族の大切さに気付いた。
● 給食のありがたみを感じた。
● 人と接する機会が減り、他人と会わないことで人見知りになりそうだった。
● 日用品の確保(マスクなども)が大変。通販だけでは補えないものもあり、店舗へ行くことに不安があった。

保護者アンケート

保育室ではクラスの中で2チームに分かれ、密集して遊ばないように工夫。遊具や玩具を準備し、使用後はすぐに消毒。

自粛期間中の保育の中で気を付けていたこと



屋上も利用し、換気のよい場所で遊ぶようにしました。

色々な行事が中止になる中混雑を避けて開催した縁日ごっこ

6月からの保育で気を付けていること



給食も間隔をあけていただきます

給食時は対面で食べないように座席を配置、間隔を開けて食べています。昼寝はベット、布団共にシーツを上敷き、個人の名前を書き、共有して使用しないように気を付け、十分な間隔を取り、ゆったりと眠れるように配慮しています。



ちの安心・安全を第一に、その姿を優しく見守っていきます。4月1日からの新入園児は40名、進級児は14名、新生都島第二乳児保育センターは54名で始まりました。新型コロナで緊張の毎日ですが、子どもたちは、元気いっぱい！友だちいっぱい！感動いっぱい！私たちが子どもたちのすこやかに育つ力を信じて、保護者の皆さまと共に、子どもたちの安心・安全を第一に、その姿を優しく見守っていきます。



今年度から0歳児クラスを新しく創設、都島第二乳児保育センターは0歳児から2歳児までの保育園になりました。昭和48年に開園されてから47年目。子どもたちの成長を温かく見守ってきた園舎も昨年からのリニューアル工事に入り、今年3月には改修工事を終えました。外装は優しい陽だまりのような色に塗り替えられ、広々とした自慢の屋上には新しい遊具も設置され、いっそう楽しいスペースに。玄関を入ると青空が広がった天井が見え、奥に進むとカラフルなソフトマットで囲まれたフリールームがあり、奥に鳥が羽ばたいています。子どもたちもお気に入りの部屋の一つです。階段もモダンに一新、各フロアの踊り場には大きな窓枠に気球や海が描かれ、ガラスの飾りの動物が出て迎えてくれます。2階、3階フロア共に綺麗になり新しい保育室で子どもたちはのびのびと遊んでいます。



都島友渕乳児保育センター

友渕児童センター（分園）



園の紹介動画



家庭でもあそびを楽しみ、満足感や充足感を味わえるように…

動画の配信

撮影中は、職員も距離をとって…



家にいながら少しでも保育園と同じような時間を過ごすには…「体操してみるのはいかがかな?」「季節のうたを歌ったら、お家でも一緒に楽しめるかな?」「次は、誰が編集する?」など話も弾み、職員の気持ちも前へと動き出しました。



子どもたちの日頃の様子を保護者の方へ配信するものからご家族で楽しく見ていただけるような内容へ方向転換しました。

いないいないばあ!

子どもたちに人気の“職員オリジナル”の手作り絵本を題材にこの動画が生まれました。



会えなくてもつながっているよ

園内環境の見直し・整備

絵本や紙芝居の修繕、玩具の点検、教材庫の整理整頓など、子どもたちが安全に遊べるよう、また保育者も意欲的に保育に向かえるような環境を整えました。



保護者アンケート

1 自粛生活で良かったことはありましたか?

- 時間に余裕がもてた。
- 子どもと一緒に料理をしたり、ゆっくりと絵本を読んだり、普段なかなか出来ないことが出来た。
- 言葉が一気に増える時期だったので、毎日新しいことを喋るようになるのを見られた。

2 自粛生活で困ったことはありましたか?

- 食事の献立を考えるのが、難しかった。
- 親も子どもも一対一でストレス。
- 生活リズムが崩れ、昼寝に時間がかかった。

3 第2波への対応についてどのように考えますか?

園に対して

- 必要に応じて行事の縮小も仕方ない。
- 子ども同士の濃厚接触は避けられない。
- 最低限の手洗い・消毒は徹底してほしい。

4 園の動画の配信を見た感想は?

- 「いないいないばあ」の動画がお気に入りでした。
- 人と会わない生活で親も安心感が得られた。

つながろうプロジェクト ~ KEEP YOUR HEART ~

自粛期間を活かした保育の質の向上のための取り組み

手づくりおもちゃの製作

センサリーバッグ

年齢や発達に応じたおもちゃを作る中で、新たな素材の魅力や活用方法に気付いたり、あそびの環境の見直しにつながるなど、より丁寧に保育と向き合う時間となりました。

無限ティッシュ

指先あそび



子どもたちが手に取って遊ぶ姿を想像しながら作っていました。

ビー玉転がし

ぶにぶに～気持ちいい～



#新しい日常

手洗いの徹底・マスクの着用・ソーシャルディスタンスを保つ・三密を避ける。子どもたちとのふれあいが欠かせない保育園では「無理難題」とも言える項目も多い。しかし『新しい日常』を受け入れたいのは、大人の方かもしれない。それを「習慣」として取り組めば、子どもたちにとっては『日常』となり得ます。暮らして、それぞれの生活の場で感染拡大を防止する習慣を一人ひとりが実践していくこと。まずは大人が優先的に取り組むべきことを実践し、『新しい日常』を子どもたちと創り上げていきます。



子どもたちと関わる中でマスクの着用は必須ですが、顔が覆われてしまうと表情がうまく読み取れないのでは…?その分、身振り手振り・目線や声のトーンを意識して保育しています。

園生活に期待が持てるように…

新入園児の方は、入園式も中止になりはじめての園生活のスタートまで長い期間がありました。なかなか会える機会がないため、電話連絡で家庭での様子をうかがったり、「園内はどこなところ?」「どんな先生がいるの?」そんな不安な気持ちが少しでも解消され、園での生活を楽しみに待っていただけるよう職員の紹介も兼ねて様々な動画配信を行ないました。

動画配信

家庭訪問

電話連絡



病後児保育

緊急事態宣言が明け保育園や幼稚園が再開されましたが、大阪市教育委員会の新型コロナウイルス感染症対策マニュアルにより、発熱等の風邪症状があった場合、快癒後2日間の静養が必要なお子様も病後児保育の利用が増えてきています。症状が始まってからの経過を詳しく聞き取り、当日入り口での検温をさせてもらっています。普段なら様子が見られる状態であっても熱が上昇してくるようであれば、お迎えに来て頂くようにしています。最大4名が同じ部屋で過ごすため、他のお子さまがどの様な症状で利用するのかをお伝えし、同意を得ています。



こども発達 サポートステーション それいゆ

非接触で計測時間も短い体温計を使用しているので、検温も嫌がることなく行うことができます。保護者の方にも家での様子を記録してもらい、安全に配慮しています。

登園時



ばんだぐみ
移動します。

足型の所で待って、
距離を取った遊具あそび。



活動



少人数グループで交代して
水遊びをしています。

ソーシャルディスタンスを意識して、療育室やトイレなど込み合わないよう、トランシーバーを使って連絡を対応しています。活動では、あそびコーナーを複数用意して、距離を取って遊べる環境づくりをしています。

子どもたちを守る それいゆの新生活様式

新型コロナウイルス
感染症対策マニュアル

子どもたちも日々の
健康状態をチェックして
登園しています

職員も出勤時に健康を
チェックしています。

給食

ひとつのテーブルにつき子どもの人数は2人までとし、子どもがひとつのテーブルで迎え合わせにならないように、距離をとりながらも、楽しい雰囲気です。

1.5m以上離れるように
しています。



送迎車 (バス・乗用車)

座席も席を空けて座るように
しています。

密を避ける為、送迎車はバスに加え乗用車を増やし、分散した送迎を行っています。



運転席に透明のシートで
区切っています。



緊急事態宣言を経験して...

- **電話支援について**
先生方からの電話が楽しみの一つでした。先生の声が聞けてホッとできる時間でした。
- **園の動画を見て**
体操の動画を見て「せんせ〜」と言いながら踊っています。お気に入りでは毎日見えています。
- **お兄ちゃんと過ごす時間が長くなり、自分からお兄ちゃんに近づく事が増えたこと。**
- **自粛生活で良かった事**
主人が在宅勤務になり、家族一緒に食事ができた事。大人がもう一人いる安心感から穏やかに過ごせました。
- **家で過ごす時間が長くなり、騒音の苦情が出ないようにするのがストレスだった。**
- **父親が在宅勤務になったが、作業部屋に子どもを近づけるなど言われ困った。**

- **保護者の声**
自粛生活で困った事
ストレスが溜まっているのか大声で泣く事が多かった。それに伴い兄弟もイライラして悪循環であった。
- **子ども**
子ども同士で学校や習い事など、友だち同士接する機会も増えている為、守って欲しいことは我が家ルールとして決めました。
- **帰宅後、手洗いと手指消毒をする。買い物はなるべく一人ですませる。家族のお出かけは公園へ行くことを心掛けていました。**
- **外出を避ける為、テレビ電話で家族や友人と交流していました。**

- **不安に感じた事**
20〜30歳は感染していても、無症状な人が多いというニュースを見て、いつのまにか感染しているのではないかと不安がありました。
- **子ども**
子ども(2歳)に感染して重症化しないかなど、病気のことが詳しくわからないのが不安だった。
- **休校中は家族(祖父母)の協力体制がありましたが、色々な事の見通しが立ちにくい状態だったので、疲れや心配事も増えていたと思います。**
- **対策をどのようにしたか**
マスク不足時に、手作りマスクを作成していました。
- **子ども**
子ども同士で学校や習い事など、友だち同士接する機会も増えている為、守って欲しいことは我が家ルールとして決めました。
- **帰宅後、手洗いと手指消毒をする。買い物はなるべく一人で済ませる。家族のお出かけは公園へ行くことを心掛けていました。**
- **外出を避ける為、テレビ電話で家族や友人と交流していました。**

- **職員の声**
新型コロナウイルスの休園期間に感じた事
好きな時に好きな場所に行ける事が当たり前だと思っていたけれど、当たり前じゃなかった。母親として立場、職場での立場、両方の重さを感じる休園期間中でした。祖母に負担をかけたと思います。
- **不安に感じた事**
20〜30歳は感染していても、無症状な人が多いというニュースを見て、いつのまにか感染しているのではないかと不安がありました。
- **子ども**
子ども(2歳)に感染して重症化しないかなど、病気のことが詳しくわからないのが不安だった。
- **休校中は家族(祖父母)の協力体制がありましたが、色々な事の見通しが立ちにくい状態だったので、疲れや心配事も増えていたと思います。**
- **対策をどのようにしたか**
マスク不足時に、手作りマスクを作成していました。
- **子ども**
子ども同士で学校や習い事など、友だち同士接する機会も増えている為、守って欲しいことは我が家ルールとして決めました。
- **帰宅後、手洗いと手指消毒をする。買い物はなるべく一人で済ませる。家族のお出かけは公園へ行くことを心掛けていました。**
- **外出を避ける為、テレビ電話で家族や友人と交流していました。**

緊急事態宣言発令にともない...

家庭療育協力期間中は、子どもたちが少しでも家で楽しく過ごせるように体操動画や制作動画をホームページにアップしました。現在も掲載しています。また、保護者の方には家で過ごす中での、育児相談など電話で対応をして取り組んでいました。



都島児童館

子どもの安全の保証（感染対策）

子どもの育ちの保証（あそび）



Pick up!

手洗いはタイマーを使って30秒※！
「ちゃんと手洗ってよー！」という支援員の声掛けが減り、自分たちで主体的に取り組むため、習慣づいています。
（※厚労省・大阪市教育局委員会推奨）



飛沫防止の仕切りも、ごっこ遊びでは受付カウンターのように使うことで雰囲気アップの一石二鳥。邪魔なものとしてではなくより楽しめるようにする力はさすが！



遊びを制限するのではなく、したい遊びをするためにどんな対策が必要かを目に見える形でアイコンに！
職員の声掛けも減ります！

遊びを制限していた期間もありましたが、いまでは遊びの前後に自分たちで消毒するなど、遊びの一部に感染対策が根付いてきています。

Check!



Check!

外遊びでは熱中症に配慮してマスクは外して活動します。メリハリを大切に、元気に体を動かして気持ちも体もエネ ルギーいっぱい！



したい活動をするために、子どもたちで工夫します。
催しをするときには少人数で、ごっこ遊びに誘うときには本物のお店のごとく入り口で手指消毒をするなど、非日常の日々も、子どもたちにかかれれば日常にしていきたいと思います。



正解はない、だからこそ今できる最善を！。

子どもと関わる際に「保育に正解はない」という言葉をよく耳にするかと思いますが、日々子どもたちの最善の利益とはなにか？を考え、正解ではなくとも適切なかわりを追及する中で、3月から突然始まった新型コロナウイルス感染症による全国一斉休校。それに伴い、都島児童館でも原則朝から開所となりましたが、学童は小学校以上に三密になる危険性があるため、こまめな手指消毒に1時間おきの換気、できるだけ向かい合わない、お友だちとは2メートルの間隔をあけるなど、可能な限りの対策を講じました。それでも完全には三密を避けられないため、各施設とも時間さえあれば戸外に行くなど、全て手探りでしたが、それでもリスクを減らす取り組みを懸命に行い、子どもたちと向き合い続けられました。

都島児童館では感染対策の中でも

【どうすれば「あそび」に安心して取り組めるのか】

【感染対策が日常となり、職員からの声掛けを極力増やさず、子どもたち同士で気を付け合うことのできる環境と仕組み作り】

という2点に私たちは注力し、

- ・タイマーを使用した手洗い（楽しんで手洗いできるように）
- ・対面での遊びには仕切りの使用
- ・ゴム手袋を装着しての活動

できるだけ遊びに制限がかからない、制限がかかっても活動の幅をできるだけ狭くならないような対策を行ってきました。手洗いに検温、使用した玩具の消毒など、今までからも当たり前のように習慣化してきたことですが、これまで当たり前に行っていた活動に対してこれで大丈夫かな？と改めて振り返るきっかけとなったように感じます。

また、休校期間中には多くの企業や団体の方々が子どもたちのために！と様々な支援をしてくださり、地域や学校との連携が子どもたちの成長にとって不可欠なものであることを改めて感じさせられました。

これまでの保育とは大きく変わっていくことに不安はありますが、あらためて「正解はない、だからこそ今できる最善を」との思いでこの困難を乗り切れるように努めていければと思っています。



Pick up!

楽しい時間と合わせて大事にしたいのがゆっくり過ごせる空間。のんびりと過ごしたり、みんなで映画鑑賞会をしたり、流行りの漫画を読みふけったり。



他の施設の子どもたちとリモートカードゲームを行ってカードをカメラに映しながら「はいきまーす」と丁寧に声をかけ合う姿が見られました。

緊急事態宣言を経験して..

保護者の方に聞きました

新型コロナウイルスが感染拡大する中で、学校が休校日の時に朝から開所していたので大変わかりました。感染の不安や対策の不透明さがある中で、児童館の職員が出来る限りの対策をしてくれたので、私たちとしても安心して預けることができました。

休校期間中に不安に感じたことはありませんか？

施設内での活動はどうしても密になってしまうという情報もあり、これまで通りに登館させても大丈夫なのかという不安は常にあり、田舎の祖父母の所へ預けることも検討していました。「学童は楽しいから行きたい」といつか来ていたのが救いでしたが、子どもは大人ほど急な変化についていけないことも多く、仲のいいお友だちが休んでいた、できなくなったあそびが少しずつ増え出したころには家でもビリビリした状態が続きました。

緊急事態宣言後ではどう変化がありましたか？

4月からは受け入れ対象者を限定しての特別保育を児童館でも実施されていましたが、両親とも医療従事者のため、その期間中も特別保育申請書を提出して受け入れをお願いしていました。しかし弟の通っている園では両親の片方が医療従事者でも、もう片方が受け入れ対象外の企業であれば登園不可になる恐れがあるということを知り合いから聞き、預けられるのか不安感もあり、弟は祖母の家に預けることにしました。

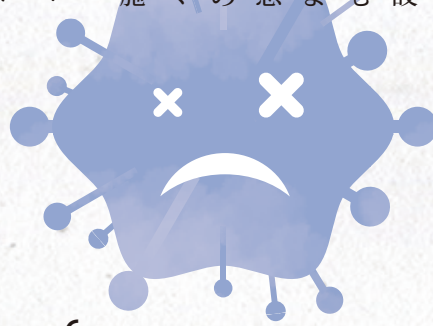
防護服と医療キット
早めの準備が功を奏しました



私も法人の中でも唯一の入所施設です。施設の職員は80人を数えます。日常生活においても自宅にいても感染予防を怠りなく行っておりま。しかしどんなに注意していても、どこから感染するかはわかりません。今以上に感染防止の対策はないか、多くの知恵を結集しようと、個人で実践している感染予防のアンケートを実施しました。様々な実践報告が上がりました。『買物した商品を拭く。玄関に消毒液を置き、帰ったらまず消毒を行う。手洗いは、ペーパータオルで拭き取るなど』『集計を取り全職員で共有しました。その後は「自分が感染しない」「利用者者に感染させない」「利用者間の感染を媒介しない」といった共通認識が強まり、清潔を保つ意識が高くなったと思います。今後も、おそらくは長い闘いになると思います。が、新型コロナウイルスに負けることなく、職員互いに励まし合いながら、利用者やご家族に安心していただける「安心・安全」な介護を提供していくとともに、利用者や地域に向けて、私たちにできる限りの支援を実践していきたいと思えます。

生活相談員 野間 広二

過去の経験、教訓を生かした日々の業務で、 コロナ時代の安心安全を提供します。



トキエポイント その時ひまわりの郷では…

緊急事態宣言発出

- 2月28日
- 3月4日
- 4月2日
- 4月13日
- 4月16日
- 4月17日
- 4月21日
- 4月26日
- 6月1日
- 6月10日
- 6月15日
- 7月17日
- 7月29日

緊急事態宣言後

- ・大阪府緊急事態宣言の解除に伴い中止していた面会を再開した
- ・職員通常勤務に戻した
- ・毎月のお便りの中に、お1人お1人の、生活の様子を写真にとり、報告させて頂くようにした ※ご家族からは大変好評だった
- ・行事について7月も引き続き見合わせたこと、ボランティアさんの受け入れも継続して自粛して頂いた ※アイスバイキング・リハビリ・朝食バイキングは実施している
- ・再び新型コロナウイルスの感染者増加を受けて発熱時は個室移動を徹底をした
- ・全フロア消毒・感染予防を徹底するように申し合わせをした

緊急事態宣言中

- ・施設内研修を延期した
- ・体調不良時のフロッピーチャートを作成した
- ・新型コロナウイルス感染症対策に、消毒したくなる「ナッジ」理論を取り入れた
- ・通勤方法は、どうすれば？ 通勤時に感染するリスクもある。備品は足りているのか。
- ・おばあちゃんが私のことを忘れないか心配です。
- ・家族が感染すると面会にも行けなくなるので、自宅で自粛をしている。早く収束して欲しい。
- ・こんな時だから、転倒などしても病院がなかなか受け入れてくれないんじゃないか...怪我のないようにだけお願いします。
- ・職員時差出勤を開始した
- ・消毒箇所を拡大した(1階・6階)
- ・体調不良時は、施設の指示に従うように申し送りを行った
- ・職員へコロナ対策アンケートの実施した
- ・新型コロナウイルス感染に伴う今後の対策会議を開催した

緊急事態宣言前

- ・ボランティア活動を自粛して頂いた
- ・ご家族の面会の自粛をお願いした
- ・全職員に不要不急の外出を避けるように啓発し、外出しなくてはならない場合はメモ帳に記録を残すように申し合わせた
- ・体調報告書の記載を開始した(毎日、出勤時に提出する)
- ・感染防止の観点から早出、遅出、夜勤を30分早めて退勤するようにした
- ・職員時差出勤を開始した
- ・消毒箇所を拡大した(1階・6階)
- ・体調不良時は、施設の指示に従うように申し送りを行った
- ・職員へコロナ対策アンケートの実施した
- ・新型コロナウイルス感染に伴う今後の対策会議を開催した
- ・施設内研修を延期した
- ・体調不良時のフロッピーチャートを作成した
- ・新型コロナウイルス感染症対策に、消毒したくなる「ナッジ」理論を取り入れた
- ・通勤方法は、どうすれば？ 通勤時に感染するリスクもある。備品は足りているのか。
- ・おばあちゃんが私のことを忘れないか心配です。
- ・家族が感染すると面会にも行けなくなるので、自宅で自粛をしている。早く収束して欲しい。
- ・こんな時だから、転倒などしても病院がなかなか受け入れてくれないんじゃないか...怪我のないようにだけお願いします。
- ・職員時差出勤を開始した
- ・消毒箇所を拡大した(1階・6階)
- ・体調不良時は、施設の指示に従うように申し送りを行った
- ・職員へコロナ対策アンケートの実施した
- ・新型コロナウイルス感染に伴う今後の対策会議を開催した

- 職員
- ご家族様
- ご入所様



盆踊りの代わりに花火大会のビデオを上映



テラスにてスイカ割り



アイスクリームバイキング



施設内研修



各階の食堂スペースにて、音楽鑑賞会を実施



近隣の方を招いて、プロジェクターのお披露目会



1階カフェテラスにて、日向ぼっこしました。日の光が気持ちいい。

『地域のチカラ 小さな支援』がピンチ!?



笑顔に出会えた！
1月にコロナの言葉を聞き、それがあつという間に全国に広がりました。ひだまり食堂も2月末からずっとお休みにになり、緊急事態宣言解除後の6月中旬にようやく再開。「ひさしぶり」「どうしてはったの?」「ずっと家にいたわ」「私も!」「いっぱい家の中片付けた」「私も!」と『stay・home』のそれぞれの成果(?)を聞くことができた久々の再会。人は人の中で生きていることを実感しました。

ひまわりネットは『地域の方とのふれあいや交流を深め、ゆとりのある暮らし、生きがいと喜びを見出せるよう支援していく』を目的としています。
その目的を根っこから考えさせられたのが今回の「新型コロナ」。地域貢献の立場から「新しい生活様式」を考え、まずは小さな試みから始めてみました。朝10時、老若男女誰もが知っている「ラジオ体操」をスタート。行き交う人々に朝のあいさつしながら、身体全体を動かし、心も体もスキッとします。ちょっと距離を保ちながら(ソーシャルディスタンス)の交流。ひまわりネット流、新しい生活様式を始めています。

報告

令和2年7月豪雨の被災地人吉市に災害支援「いね物産展」の収益金3年分を送りました。

2018年	37,150円
2019年	34,160円
2020年	43,600円
合計	114,910円 (振込料込)



マスク不足を補うため利用者様と一緒に手作りマスクを作成

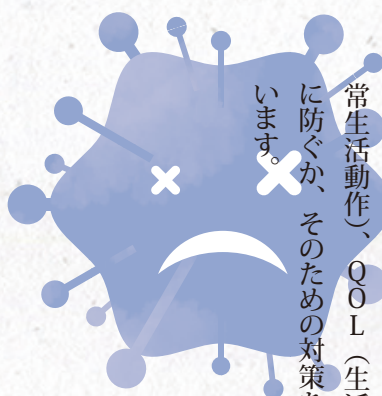


飛沫感染防止に手作りで作成したビニールシートを各テーブルに設置



在宅介護の拠点として、デイサービスの開所を維持しながら感染を防ぎ、利用者の方の安全をどう守るか、それが最大のテーマでした。

新型コロナウィルスの感染拡大が始まる頃から、朝のお迎え時での手指消毒や検温の実施、食事時以外のマスクの着用をお願いなど、私たちは感染防止のために最大限の努力を払ってきました。高齢者は持病を持っている方も多く、感染すると重症化しやすいという特徴があります。また私たちのような施設はクラスター(集団感染)が発生しやすい場所でもあるからです。デイサービスやケアなどを利用される高齢者の多くは他の介護サービスも同時に利用しています。そのため利用者自身が感染源となつて新型コロナウィルスを広げてしまう可能性があります。また利用者様が職員から介護を受けると、身体を密着させた濃厚接触となつてしまい、職員が感染して他の利用者様に広げてしまうことも考えられます。毎日使用する消毒スプレー容器、マスク、消毒液、体温計など、物品が不足し、今まで簡単に購入出来ていたものが入手困難になり、職員が手分けしてシヨップを回り、何とか確保できたこともありました。マスク不足の時にはペーパータオルを使う簡易マスクを利用の方とともに作成、皆さん、マスク不足はニュースで知っておられたので積極的に参加され、自作のオリジナルマスクを喜んで着用されていました。緊急事態宣言の解除でホッとしたのもつかの間、7月以降の感染状況から今まで以上に施設内でのクラスター発生の防止に努めるとともに、終わりの見えぬこれからのコロナ社会の中で、利用者様のADL(日常生活動作)、QOL(生活の質)の低下をいかに防ぐか、そのための対策を職員みんなで考えています。



▲噴霧器を購入し館内の一斉消毒



▲職員はフェイスシールドを着用



▲サーキュレーターを窓のそばに設置し常時換気

緊急事態宣言中に思った事

- 緊急事態宣言中もデイサービスを利用することができて、とても助かっている。
- 自宅では入浴ができないのでデイサービスがあいていて本当によかった。
- 電車通勤のスタッフは、緊急事態宣言以降は、電車を利用する乗客が少なくなったことで車内での乗客同士の距離を保つこともあり、少々の不安はあったものの通勤はできていた。
- 自分が感染源になり、利用者さんにつつしてしまわないかと不安に思った。
- 利用者さんに感染させない様にプライベートでの生活面も見直しが必要になった。
- 新型コロナウィルスの流行を受け、まず実体がわからない状態での感染予防をどのようにするか。標準感染予防対策だけでは防止できないのではないかと不安になった。消毒用アルコールやマスクがあつという間に品不足になることが予想できず、対応が後手にまわった。
- 現在は利用者さんのマスクの着用も定着しているが、認知症の方の中にはすぐにマスクをはずしてしまう方もおられるので、着用を促さなければならぬ。またそういった方は、フロア内をよく動かれるので特に見守りが必要である。
- 電車通勤のスタッフは、緊急事態宣言以降は、電車を利用する乗客が少なくなったことで車内での乗客同士の距離を保つこともあり、少々の不安はあったものの通勤はできていた。

職員の声

比嘉正子地域貢献事業研修センター

HIMAWARI.NET 連載こちら

ネットのきもち 15

この間、いろいろ考えた、得体の知らないウイルスで自粛生活を経験し、まず家にいること、買い物は一人で短時間、必ずマスク着用、忘れようものなら行き交う人から怪訝な視線を感じてしまう。小さな子どもは口からも「ソーシャルディスタンスや」と、いつもの添い寝を断られた母もいたらしい。難しい言葉を覚えていることに微笑ましく同時に複雑な思いにも至る。

そんな我慢の日々の中、タラタラと何もせずに過ごすことに罪悪感を覚えつついつい家の中の整理を始めてみる。定年時(約9年前)に片付けたはずなのに、いつの間にかまた要らないモノが増えている。なんと無分別かと反省してみたり、手に取ったものが懐かし、ニヤッとひとりしてたり。けれど、それも飽きて、健康は大事! コロナに負けない免疫力強化と題づくりに挑戦し始める。が、ほとんど一人暮らしのような生活に食べきれない量を作つてあんまりとってしまう。あ、美味しいもん食べに行きたいなあー! それも友だちと楽しく談笑しながら。せや、自粛やからあかんかった。

自粛生活なるもの何がつらいのか突き詰めてみるとやはり人は人の中で生き、何気ない会話や触れ合いが活力に繋がっていること、当たり前が当たり前でないことにも改めて気づく。1が、外出時はマスク着用、人の距離を保ちつつとなると、会うことにも億劫になってしまう。「2メートル離れて大声は出さない!」では「そんな聞かへんやん!」と半ばはやくそくそ気味に大阪のオバちゃん達は突っ込んでしまふ。

そんなこんなで「コロナ&猛暑、疲れるなあ」と思っていたところ、こんなニュースがー。
沖縄県立博物館・美術館の「ソーシャルディスタンス猫天才的発想!!」
《「ソーシャルディスタンスを守っていただくのにあまり押しつけがましいのはどうか?」と思いきや、文字を使わず、写真だけでお伝えすることができないかと考えたのが、この「ニャンモナイト」の写真でした。かなり実験的な試みだったので…》
ほっ☆☆☆

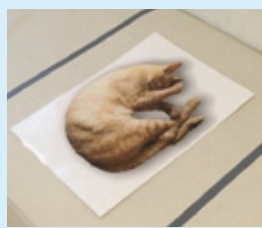
昔から「3人寄れば文殊の知恵」という言葉があるように、みんなでああでもないこうでもないと言つて話すうちにいいアイデアが生まれ、視点を交えた理解を得やすい面白い発想も生まれてくるのだな、と。

「なんでも相談室」に来る相談のほとんどが電話になり、電話口から不安の中で生きている人たちはより不安に陥っている様子が伺える。ゆっくり話を聞いて「また不安になったら電話してきてね」と言う「先生も気を付けてください」と労わりの言葉が返ってきた。心が和む。

不安な日々が続いても小さな喜びをもらえたり感じたりできるのは、一緒に働く人と一緒に生活する人、共に語り合える人がいるとの実感があれば、元気で何とかやっていけるような気がする。

4月からひまわりネットにも仲間(ひまわりネット)2名、訪問介護ひーぐるまの職員さんたち6名が増えました。

文殊の知恵が9人になり、パワーアップしたひまわりネットを今後もよろしくお願ひします。





本部事務局長 寄瀬 博光

令和元年度～令和2年度事業



都島第二乳児保育センター
屋上リニューアル



ひがみや児童センター・こども発達サポートステーション せいのゆ新園舎



都島乳児保育センター新園舎

新型コロナウイルス感染症のため、幼保連携型認定こども園・保育園では、保護者の皆さんに家庭保育の協力を要請するとともに、緊急事態措置が発令後は、保育時間の縮小・特別保育への移行などを行いました。また高齢者施設においても面会制限のほか、できる限りの拡大防止対策に取組みました。

例年3月に令和2年度予算に係る理事会・評議員会、また令和元年度の事業報告と決算に係り、5月に理事会及び6月に定時評議員会を開催しています。厚生労働省福祉基盤課からの「新型コロナウイルス感染症への対応について」の事務連絡を踏まえ、法人としては、今般の理事会・評議員会とも定款に定める「決議の省略」による開催としました。

書面により提案した予算・決算に係る各議案について、理事・評議員全員の同意をいただき承認されましたので、その概要について報告します。

【施設整備】

ひがみや児童センター（都島東保育園名称変更）・こども発達サポートステーションせいのゆの建替新築工事が、令和元年12月21日に竣工し、令和2年1月1日から新園舎で業務を開始しています。

都島乳児保育センター建替新築工事は、令和2年4月30日に竣工し、旧園舎から移転、6月1日から新園舎で保育が始まりました。令和2年度から2歳児を受入れ、認可定員90名（0歳児・2歳児）となり、都島児童センターへ進級します。

都島第二乳児保育センターでは、外壁等の改修工事・玄関前リニューアル工事・保育室等の内部改修工事を実施。令和2年度から0歳児を受入れ、認可定員76

家庭保育の協力依頼とともに、各園のホームページで「手洗いのうた」「咳エチケットのうた」「ふれあい遊び」「室内あそび」等、職員制作の動画を発信しているところです。

比嘉正子地域貢献事業研修センターでの保育士等キャリアアップ研修には、乳児教育・幼児教育など7分野に延べ199名が受講し、修了者は194名。令和2年度も資質向上に取り組むこととしています。

【高齢者施設】

特養ひまわりの郷（90床）の令和元年度の稼働率は、入居・シヨート利用者あわせ96.4%と前年度並みとなっております。平成30年度から取組んでいる看取介護を希望される利用者・家族も徐々に増加してきました。介護職員の腰痛防止のため、マッスルスーツ（移乗介助）など介護機器の導入や、タブレット導入により介護記録の簡略化を図りました。

ひまわりの郷に隣接する、ひがみや児童センター・こども発達サポートステーションせいのゆが一体となり、園児・利用者の交流とともに、ひまわりカフェを通して地域との交流を促進するなど、公益的な取り組みを、より一層進めていくこととしています。

令和2年度からの新規事業として、要介護者や要支援者の自宅を訪問し、身体介助や生活援助を行う訪問介護事業を開始しました。

近年、デザインサービス事業は経営環境が厳しい状況が続いています。また新型コロナウイルスのため、外出自粛要請もあり利用者が大幅に減少しました。令和2年度に事業の規模や方向性を検討することとしています。

名（0歳児・2歳児）となり、来年度からひがみや児童センターに進級することとなりました。

令和3年の法人創立90周年に向けて、平成25年度から順次、児童施設の新築建替と大規模改修等、環境整備を進めてきましたが、一応の完成をみたところ

です。

令和元年に完了し設置された特別養護老人ホームのひまわりカフェは、入居者や家族の皆さんとともに、近隣の皆様の憩いの場・交流の場として利用されています。

令和2年度は、老朽化のため供用休止した賃貸アパートあやなす荘（1階は都島乳児保育センター旧園舎）を解体撤去し、（仮称）あやなすの郷の整備計画を策定・着手していくこととします。

【児童施設】

幼保連携型認定こども園・保育園では、小学校就学までの一貫した質の高い保育・教育を提供しています。英語・音楽・体育・プログラミング等特別活動は専任の講師と連携をとり、日常の保育にも取り入れるなど充実を図りました。

令和元年5月に、大津市で散歩中の保育園児16人が死傷した事故を受け、各園では園内外の危険個所の点検と確認を行い、職員が情報を共有し、安全で安心に過ごせる環境づくりに努めています。

新型コロナウイルス感染症ため、各園では保育室及び備品等の消毒を徹底しています。



動画「手洗いのうた」より

【人材確保と処遇改善】

保育士・介護職員養成校への訪問、就職フェアへの参加、施設説明会・見学会など積極的なルート活動を進めました。令和2年度は新型コロナウイルスのため、説明会・見学会の開催が困難なため、就職活動の皆さんに「都島友の会紹介動画」を、法人ホームページに掲載しています。

人材確保と離職防止のため実施している保育士宿舍借り上げ事業は、現在27名が利用。令和2年4月から月額に支給する処遇改善手当を増額しました。



「都島友の会紹介動画」より

【With「コロナ」】

新型コロナウイルス感染症患者が増加する中で、一日も早い治療ワクチンの開発が待たれます。それまでの間、新型コロナウイルスのため、日常生活とともに、法人各施設の事業の運営にも、様々な形で影響がでることが予想されます。

令和2年度も法人各施設は、園児・利用者として職員の安全安心を第一に事業を進めてまいります。保護者・利用者の家族の皆様方におかれましては、ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なぜ、訪問介護？

都島友の会は90年に及ぶ長い年月をかけ、0歳から100歳まで、人の誕生から看取りまでに関わる法人になりました。近年では、ひだまり食堂やひまわりの郷にカフェを作るなど、地域の方々の憩いの場の提供にも力を入れています。そのような都島友の会が、これまで手をつけてなかったのが訪問介護です。「介護」とは、とすれば「自分が出来なくなったから助けてもらう」といったネガティブなイメージが強く、訪問介護となると知らない人が家に来ることの不安や心配で利用を躊躇する方もいらつしやいます。しかし私たちは、「介護」よりよい生活（クオリティライフ）を維持できるもの」とポジティブに考え捉えていただきたいのです。

都島友の会が新たな高齢者支援として始めた訪問介護事業『ひーぐるま』。高齢者お一人おひとりが住み慣れたお家で安心して快適に過ごせるために、私たちは今日も自転車でご家庭を訪問します。



訪問介護 ひーぐるま

〒534-0021 大阪府大阪市都島区都島本通 3-16-8
比嘉正子地域貢献事業研修センター 1階

<https://www.facebook.com/hiiguruma/>

令和2年4月よりSTART!!

私たちに
おまかせください!!
TEL:06-6921-7320

担当：田中浩司

ひーぐるまで
大切にしていること



訪問介護事業所は都島区でも40か所以上あります。介護保険でのサービスですから、どの事業所でも出来るサービスはそれほど変わらないでしょう。ではどこに違いがあるのか？それは事業所に対しての信用、信頼ではないかと思っています。ただ信用というものは1日で得られるようなものではありません。サービスを提供する一つひとつの姿勢や態度、誠実に取り組む積み重ねがあつてこそ信用は生まれ、この事業所を利用したい、この事業所にお願しようということにつながり、その信頼を基に、利用者は増えていくのだと思います。介護サービスを利用者に提供するとき、ケアマネジャーと関わる際、ご家族と対するとき、いつでも「今私たちのこの行動は、皆様への安心や信頼を築くことにつながるだろうか」と考え行動する意識を持ちたい、そしてその結果が必然的にサービスの向上に結び付くと考えています。

もしも私たちがのの仕事は対人援助ですから、どれだけ人を思いやれるかが、基本中の基本です。それは利用者のみならず、一緒に働く仲間に向けても同様です。介護に携わる人材不足の深刻な中、ともに働く仲間の高いサービスなど提供できません。一緒に働きたいと思つてもらえて、なおかつ長くやりがいをもって働ける雰囲気の良い職場環境を作つていこうと思つています。そのためにはまずは忙しいと言いつつ話を人の話を真剣に聞くことから始めたいです。

利用者のための、ご家族のための、そして共に働く仲間のための、よりよい生活、クオリティライフを実現するための、『ひーぐるま』でありたい！『ひーぐるま』は頑張ります。

今号の表紙



美しい花と緑、たわわな実り、あふれるような光につつまれ、都島友の会の子どもたちは元気いっぱい!!

編集後記

新型コロナウイルスによる甚大な被害が世界中に広がり、この未曾有な事態はいまだ收拾する気配を見せていません。日本でも4月に緊急事態宣言が発令され、当法人としても感染防止対策を保護者の方々のご理解ご協力いただきながら、現在まで取り組んでまいりました。感染防止対策として、朝の受け入れの仕方から日中の過ごし方、消毒方法等、一つひとつ全て見直し、また自粛期間中の家庭保育の子どもたちが楽しめるよう動画配信を工夫するなど様々な取り組みをする中、新しい保育の発見にも繋がりました。

今号の『ゆんたく都島』は、法人がこの間、新型コロナウイルスの感染防止対策にどう取り組んできたかとともに、子どもたちの姿や職員の奮闘ぶりをご紹介しました。

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」が求められ、今後、暮らしが大きく変わる中で、コロナと向きあっていきながら、私たちは何をなすべきなのか、日々自問自答しながら、よりよい教育・保育、療育、介護に繋がるよう努めてまいります。

桜宮児童センター 米田 正和